

校訓	友 勤 自 愛 勉 治	 令和6年度 東中だより 第8号	発行日	令和6年7月19日
教育目標	新しい多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長 前田 徳三

【1学期終業式校長講話】

1学期は、修学旅行、トライやる・ウィーク、林間学舎がありました。(中略)さて、今日は『時間』について話をします。「1%の法則」についてです。まず、「37.783434」とは、どのような数字か知っていますか。この数の説明をします。1を365乗すれば1です。1年間、なんの進歩もなく後退もせず、365日を過ごせば1のままです。これをほんの少しの1%、0.01だけ努力するとします。つまり、 $1 + 0.01$ の1.01を365乗すれば、37.783434で、ほぼ38になります。それをもう少し頑張った0.02努力すれば1.02になり、1.02を365乗すれば、ほぼ1400になります。逆に、毎日ほんの少しの0.01だけさぼったとします。つまり、 $1 - 0.01$ の0.99となり、0.99の365乗は0.025でほぼ0に近くなります。0.99と1.01は小さな差ですが、1年間では、0.025と37.783434で、その差はなんと約1,500倍にもなります。



みなさんは、0.01の魔法を信じてください。1%の砂糖水や食塩水は、決して甘くもしょっぱくもありません。しかし、ほんの少しである0.01を侮ってはいけません。少し頑張るのか、少しサボるのかで1年後の自分は大きく変わります。また、1の365乗は1といいましたが、現状維持は後退の始まりです。周りのみんなは日々、変化向上しています。そう考えれば、後退していることがわかります。日々の積み重ねの努力で1年後、中学校生活の3年間、いや人生は大きく変わります。

まずは、夢を持ち、少しずつ実行、行動に移してください。ただ、この話を聞くと、自分はもう遅れてしまったと感じる人がいるかもしれません。大丈夫です。今から、コツコツ初めていけばいいだけです。何歳であっても、努力することに遅すぎることは決してありません。

また、1日の1%はおおよそ15分です。例え1日15分の勉強も1年続ければ5,475分になり、約90時間に相当します。90時間の勉強を1週間で確保することは無理ですが、ルーティン化して、少しずつ時間を確保すれば、相当な時間を確保することができます。15分を無駄にせず、努力を続けてください。

1日の長さは、世界中みんな同じで、老いも若さも関係ありません。ノーベル賞を受賞した天才と言われた人も、大谷選手も誰も変わりなく、しかも、過去も現在も同じ長さの1日を生きています。その時間をどのように使うのか、また、その時間をどのように過ごし、どんな価値を見出すかで、みなさんの生活の満足度、充実感などすべてが変わってきます。

そして、努力の習慣化は確実に力がつき、勉強以外でも習慣として努力を続けている人にはなかなか追いつけないものです。まずは、39 日間の夏休みをどのように充実させるのかをよく考えて過ごしてください。

最後に、8月28日に、みなさんの元気な笑顔が見られることを楽しみにしています。また、何か困ったこと、心配なことなどがあれば、遠慮をせず学校に連絡をしてください。校長先生もなるべく校長室の扉を開けて待っています。これで私の話を終わります。

【生徒による授業評価アンケート】

AIの技術が人間より賢い知能を生み出す「シンギュラリティ」が、予定されていたよりもかなり近い未来に到来すると多くの専門家は語っています。それらのこともあり、日本の企業とイギリスのオックスフォード大学の共同研究では、今後20年以内に日本の労働人口の49%がなんとAIやロボットに代替可能であると公表しました。



未来が大きく変わる中、その未来を築いて生きていく子どもたちの教育を、未来を見てから変えるのでは、間に合わないと考えます。そこで、これまでの知識を教える「知識伝達型」だけの授業、つまり、教師が指示したことを忠実にこなしていくだけの授業では、これからの時代を強く生き抜く子どもたちの力を伸ばすことができません。そこで、本校では校内研修会を行い、今、求められる学力をつけるための授業力向上などに取り組んでいます。その一環として、授業の主人公である子どもたちが、各教員の授業をどのように感じているのかを客観的に捉えるために、授業毎に「先生は授業のめあてや見通しを示している」「先生は学習の成果を適切に評価してくれる」などの内容の授業アンケート調査を行いました。この調査を通して、子どもたちの満足感や学習意欲などの実態を把握し、我々の自己研鑽に繋げてまいります。これからも、子どもたちだけでなく、私たち教師も日々学び続け、さらに素晴らしい東中学校にしていきたいと考えています。

【体育座り】

これまでも個別には対応してきましたが、腰の痛みが出るなどの理由から体育座りを行うことできない子どもには、体勢を崩して座ったり、椅子に座ったりできるようにしております。各学級において、子どもたちには伝えておりますが、もし、そのような場合は、遠慮なく担任または体育科教員までお申し出ください。

※ 部活動等の結果については、次号にてお知らせいたします。

東中学校の取組や子どもたちの様子をホームページに載せています。是非、ご覧ください。

https://www.itami.ed.jp/school/Jrhigh/jr_higasi/index.html

※右のQRコードをお読みいただき、東中学校のホームページをご覧ください。

学校の様子をクリックしていただくと、最新の情報をご覧ください。

